

MMSの収集情報をご  
紹介します



訪問ルポ

## ロードサイド立地と広域診療圏を見る

MMSぶらざ／MMS講座／TEXTBOOK／時事講座  
MMS伝言板／先生のON&OFF／小さな工夫



## 訪問ルポ ロードサイド立地と広域診療圏(南大阪) 佐藤眼科(大阪府富田林市)

### 「開業を後押ししてくれたのは 人とのつながりです」(佐藤寿樹院長)



大阪府下で唯一の村も診療圏の一部に抱えて、2009年2月に開業された佐藤眼科(大阪府富田林市)。まだ、開業して約1年半の新医院だが、その立地・開業企図に何か興味引かれるようなものを覚えて医院を訪問した。

インタビューで院長の佐藤寿樹先生の口からは、「ビジネスモデルの創造事業」という刺激的な言葉も――。

南大阪(大阪府南部)の東線ゾーンに市域を広げる富田林市は、昔から南河内の要衝の地として栄えてきた。今日では大都市・大阪の近郊住宅圏としての性格を強めているが、一方で農地も点在するなど、のどかな自然が残る「中小田園都市」(人口約12万人)の色合いを備えている。

また、同市は地元で二つの「全国ブランド」を擁している。春・夏の甲子園大会で幾多の全国制覇を誇るPL学園高校野球部と、真夏の大火大会(PL教団主催)がそれだ。南大阪の夜空に乱舞する打上げ花火数は、全国一のスケールだ。

幹線道路の国道170号(大阪外環状線)と、私鉄路線の近鉄長野線とが、ほぼ並行して地域の中央部を南北に貫いている。その西側には大規模団地「金剛ニュータウン」が広がり、古い町並みが残る東側とは対照的な景観を見せている。

#### 千早赤阪村

東の空を仰ぐと、奈良県との境に連なる金剛・葛城連峰のなだらかな稜線が望める。その山麓地帯は富田林市に接する南河内郡エリアにあたり、北から順に太子町、河南町、千早赤阪村の二町一村が控えている。

千早赤阪村は大阪府唯一の「村」であり、2300世帯、6300人余の人口を擁している。大阪府域の最高峰である標高1000m級の金剛山を背にしており、冬場にはこの山は美しい樹氷を咲かせる。

杉やヒノキに覆われた緑の山々、溪流沿いの谷あいには散在する山里の集落、谷間が広がる。

医院の立地パターンで言えば、佐藤眼科は典型的な「ロードサイド立地」にあたる。その特性をより如実に浮き彫りにしているのが、周辺の道路沿いに並び建つ大型商業店舗の建物だ。

大手のホームセンター、外食チェーン店、大手コンビニの店舗、大型100均ショップ、DVDショップと、いずれも営業上、ロードサイド立地が決め手となる業種の商業施設ばかりだ。

佐藤眼科の建物はそうしたブロックの一角を占めている。しかも近鉄長野線・富田林駅から徒歩約7分という好条件を併せ持っている。

広々とした駐車スペースを含めた全体の敷地面積は、約380坪。駐車場の周囲には所々に緑の植え込みも配されている。一方、平屋建ての医院の建て坪は約80坪。医院に隣接して眼鏡ショップ(約27坪)も設けられている。

建物を正面から眺めると、屋根のレベルの水平ラインが高めのせいも、それとも玄関を中心にして左右へ両翼が長く伸びるような設計の構造のためか、平屋建ての建物のわりには安壮な構えに見える。

玄関を入ると、カーブ状に丸みを帯びた柔らかな感じの受付カウンターが患者さんを迎え、飛びつきり明るい印象を受ける待合フロアが広がっている。その待合スペースの表玄関側、つまり、駐車場に面したサイドは、全面総ガラス張りになっており、外光がフロア全体にほどよく回っている。

一方、その広く明るい窓と向き合った奥側の壁の下の方には、フロアラインに沿って帯状に長めの飾り棚と、整理のいきとどいたマガジンラックがセットされ、お子様向けの折り紙遊びグッズも用意されている。

さらにもう一方のサイドの壁には、くり抜き様式のガラス張り装飾用小窓が横一列に連なり、フレームの美しさが映える眼鏡や造花などがブティック感覚で飾られている。

白と茶系統を基調としたフロア全体の色合いも、落ち着いた「和み空間」を自然と生み出すのに、効果的に作用している。

#### ワンフロア

院内の設計を全体的に見ると、平屋建てのワンフロアを最大限有効に使い、外来部門(検査、診察、処置等)と手術部門(リカバリールームを含む)の2フロアを、患者さんとスタッフ双方の動線も考慮して機能的に配しているのが、大きな特徴と言える。

もちろん、フロア全体にわたって段差を無くし、外来、手術スペースからトイレに至るまで車椅子が使えるバリアフリー設計になっている。

主な設備機器として、眼底カメラ(電子カルテシステム対応)、ハンフリー自動視野計、ゴールドマン視野計(同)、超音波白内障手術装置、眼科用手術顕微鏡システム、レーザー光凝固装置などをラインアップしている。

眼科一般からコンタクトレンズ・眼鏡処方、ドライアイ、さらに日帰り白内障手術、レーザー治療(糖尿病網膜症、緑内障等)と、最新の設備機器で種々の疾患に幅広く対応しているわけだ。



広い駐車場

#### 〈佐藤寿樹院長プロフィール〉

平成9年 近畿大学医学部卒業  
 平成9~11年 近畿大学医学部麻酔科入局  
 平成11~14年 近畿大学医学部眼科入局  
 平成14~16年 近畿大学医学部堺病院眼科  
 平成17~20年 済生会 富田林病院眼科医長  
 平成21年 佐藤眼科開設



院内見取図

#### 広い駐車場

スペースを取っており、21台分ものクルマが収容できる。

クルマ社会というものは有難い。村域の一部が富田林市境に接しているとはいえ、昔ながら千早赤阪村は富田林側から望んでも僻遠の地であった。それがいま、同村の患者さんはクルマを使って山間部の道を抜け、わけなく佐藤眼科に通院している。

クルマというスピードを備えた文明の利器は、時間感覚とともに、距離軸の遠近感をどんどん縮めていく。面積の大部分を山林が占める千早赤阪村の村域は、確かに広大だが、村役場が控える北端部の中心集落からだとして、佐藤眼科までクルマなら20~30分程度で行き着く。「とにかくクルマが使える、いつお見えになっても駐車していただける広いスペースの確保を」ということが、開業プランを固めていくうえで真っ先に重視した立地上の第一プライオリティーでした(同)



千早赤阪村

「建築屋さんは平屋構造という制約条件を克服して、こちらの注文を見事に実現してくれました。それと設計上こだわったのは、やはり「動線」ですね。外来患者さんの動線、手術患者さんの動線、それにスタッフの動線が、けっして混線しないようにと。設計・工事を通じ、建築方面の方々から私が学んだのは、

「眼鏡ショップを併設、つまり、「眼科・メガネ一体型」という開業形態も、際立った特色のように見えますが…」

### 新業態

「実は私の実家筋にあたるのですが、父がもともと南大阪を基盤に眼鏡チェーン店を営んでおります。コンタクトレンズ処方・眼鏡処方(眼科医院と、そのお買い求め(ショップ)を一体化した施設づくりは、父の長年の夢でした」

「眼のことなら、あそこへ行けば安全・安心で、一度に問題が解決できる——。すなわち、眼に関するもののワンストップ型サービスが提供できる専門施設をというのが、オーナーである父の構想だったわけですね。」

「それで役員をしている私の弟とタイアップして、新業態の施設を開業することになりました」

「「新業態」と言いますと？」

「眼科医院にただ「併設」しただけのメガネ屋ではないのです。双方でそれぞれ専門性を追求し、かつ互いに情報を密に交換しあって、患者さん(お客さん)の「眼」に関するQOLにお役立ちしていく。これが基本的理念であり、コンセプトなんです。」

要するに双方が備え持つそれぞれの専門性と機能の一体化を図り、コ・ワークを強めてシナジー効果を上げていくことが狙いです」

「これは新業態、つまり、新しいビジネスモデルの創造事業(大阪府経営革新事業)として大阪府からも承認を得ています。ショップの方は「MOC A(新ネーム)」としていますが、お陰様でコンタクトレンズ、眼鏡とも、タイ

プロフェッショナルな力量と、誇りや熱意といったものでした」

「余談になりますが、「眼」のようにも見え、葉っぱのようにも見える当医院のロゴマークは、一流企業をクライアントに持つ新進気鋭のデザイナーさんの作品です。」

人脈ネットワークのおかげで紹介いただいたのですが、私の開業理念のようなどころをみっちりヒアリングしたうえで、そこにこだわりを持ってデザイン化してくださいました」

「比較的、広範囲にわたる診療圏を抱えて、地域の患者さんに接しておられる毎日。スタッフさんのパワーにも期待がかかる場所でしょうが、最後に日頃のスタッフ指導、スタッフ教育について伺いしたいと思えます。」

「患者さんの地域別分布の順位で言うと、富田林市と河南町に次いで、太子町、それに千早赤阪村と続くのですが、最近では北部の羽曳野市や堺市の一部地区からも患者さんが見えになります。」

### スタッフ

患者さんに納得していただき、満足して笑顔で帰っていただけるように、スタッフともども頑張っております。視能訓練士を含め、平均して20代半ばの女性スタッフ7名で医院を回しているのですが、メンバーは開業時からほとんど変わっていません」

「患者さんから「納得」「満足」「笑顔」をいた

アップ効果は良好で、すでに多店舗化へのプロジェクトに乗り出しています」

「先生はそもそも、いつ頃から開業をお考えになりましたか。」

「母方の祖父母が共に眼科医だったこともあり、高校生の時から眼科の開業医になろうという夢を持っていましたね。」

大学の医学部を卒業し、最初は麻酔科に入局しました。それから眼科へ入局と、少し回り道をしたわけですが、麻酔科の知見を備えていることも開業上、自信につながります。アドバンテージになっていると思っております。」

開業を自分個人の現実的テーマとして考えるようになったのは、比較的早かったですね。もう大学病院の勤務医時代からずっと、心の準備はしてました」

「それでいよいよ、開業の具体化段階になると…」

「開業地の選定については、いろいろ紆余曲折がありました。結局、いまのところ(富田林市)に。南大阪エリアということでは、自分のキャリア上、勤務経験もありますし、それに診療圏にあたる地域の空気のようなもの、印象として馴染める感じが持てました。」

市域の中心部の「ロードサイド立地」という恵まれた条件もさることながら、結局、ここに決まったということには、何か「縁」があったのだと思います」

「縁ということで言えば、人とのご縁、つまり、人脈上のネットワークが、開業推進の決め手となったと言って良いほどの、力になってくれました。」

### 右肩上がり

2009年2月の開業から今年8月で一年半が経過したが、1日平均外来患者数は右肩上がりに順調に伸びてきている。また、日帰り白内障手術も、4月から水曜日の午前、午後とも手術に当てる態勢に切り替え、月間10数件にのぼっている。

こうした推移に連れて、カルテ枚数は7000枚台に近づきつつある。無論、新患率も依然、堅調なペースを保っている。

開業に至ったいきさつや、医院の設計上のこだわり、スタッフ教育などについて、直接佐藤先生にお伺いしました。以下にそのインタビューの模様を——。

それも当医院の場合は、医療関係者のみならず、多方面にわたる業界の方々、いわゆる「ギョーカイ・ビジネスマン」の方たちから、貴重なアドバイスを頂きました。広い視野、深い観点からの第三者的アドバイスと、熱意のこもったサポートによって進んだのが、当医院の開業プロジェクトでした」

院内のレイアウト(間取り)で見ると、とくに待合室の設計には相当、こだわられたのではないのでしょうか。」

### 待合室

「そのとおりです。検査や診察のところは機能性第一で良いのですが、待合フロアというのは患者さんが長い時間、お待ちいただく場所ですから、その空間は当然、快適でなければなりません。天井は高く、窓は広く——と、建築会社さんにはかなり無理な注文を押し付けました。駐車場に面したサイドを全面総ガラス張りとしたのも、屋外の空間とつながり感を持たせ、ゆったりとした雰囲気を出したいという意図があったからです」

「建築屋さんは平屋構造という制約条件を克服して、こちらの注文を見事に実現してくれました。それと設計上こだわったのは、やはり「動線」ですね。外来患者さんの動線、手術患者さんの動線、それにスタッフの動線が、けっして混線しないようにと。設計・工事を通じ、建築方面の方々から私が学んだのは、



「患者さんの地域別分布の順位で言うと、富田林市と河南町に次いで、太子町、それに千早赤阪村と続くのですが、最近では北部の羽曳野市や堺市の一部地区からも患者さんが見えになります。」

患者さんに納得していただき、満足して笑顔で帰っていただけるように、スタッフともども頑張っております。視能訓練士を含め、平均して20代半ばの女性スタッフ7名で医院を回しているのですが、メンバーは開業時からほとんど変わっていません」

「先生はそもそも、いつ頃から開業をお考えになりましたか。」

「母方の祖父母が共に眼科医だったこともあり、高校生の時から眼科の開業医になろうという夢を持っていましたね。」

大学の医学部を卒業し、最初は麻酔科に入局しました。それから眼科へ入局と、少し回り道をしたわけですが、麻酔科の知見を備えていることも開業上、自信につながります。アドバンテージになっていると思っております。」

開業を自分個人の現実的テーマとして考えるようになったのは、比較的早かったですね。もう大学病院の勤務医時代からずっと、心の準備はしてました」

「それでいよいよ、開業の具体化段階になると…」

「開業地の選定については、いろいろ紆余曲折がありました。結局、いまのところ(富田林市)に。南大阪エリアということでは、自分のキャリア上、勤務経験もありますし、それに診療圏にあたる地域の空気のようなもの、印象として馴染める感じが持てました。」

市域の中心部の「ロードサイド立地」という恵まれた条件もさることながら、結局、ここに決まったということには、何か「縁」があったのだと思います」

「縁ということで言えば、人とのご縁、つまり、人脈上のネットワークが、開業推進の決め手となったと言って良いほどの、力になってくれました。」

「比較的、広範囲にわたる診療圏を抱えて、地域の患者さんに接しておられる毎日。スタッフさんのパワーにも期待がかかる場所でしょうが、最後に日頃のスタッフ指導、スタッフ教育について伺いしたいと思えます。」

「患者さんの地域別分布の順位で言うと、富田林市と河南町に次いで、太子町、それに千早赤阪村と続くのですが、最近では北部の羽曳野市や堺市の一部地区からも患者さんが見えになります。」

「建築屋さんは平屋構造という制約条件を克服して、こちらの注文を見事に実現してくれました。それと設計上こだわったのは、やはり「動線」ですね。外来患者さんの動線、手術患者さんの動線、それにスタッフの動線が、けっして混線しないようにと。設計・工事を通じ、建築方面の方々から私が学んだのは、